

第 24 章 小田久保遺跡の調査

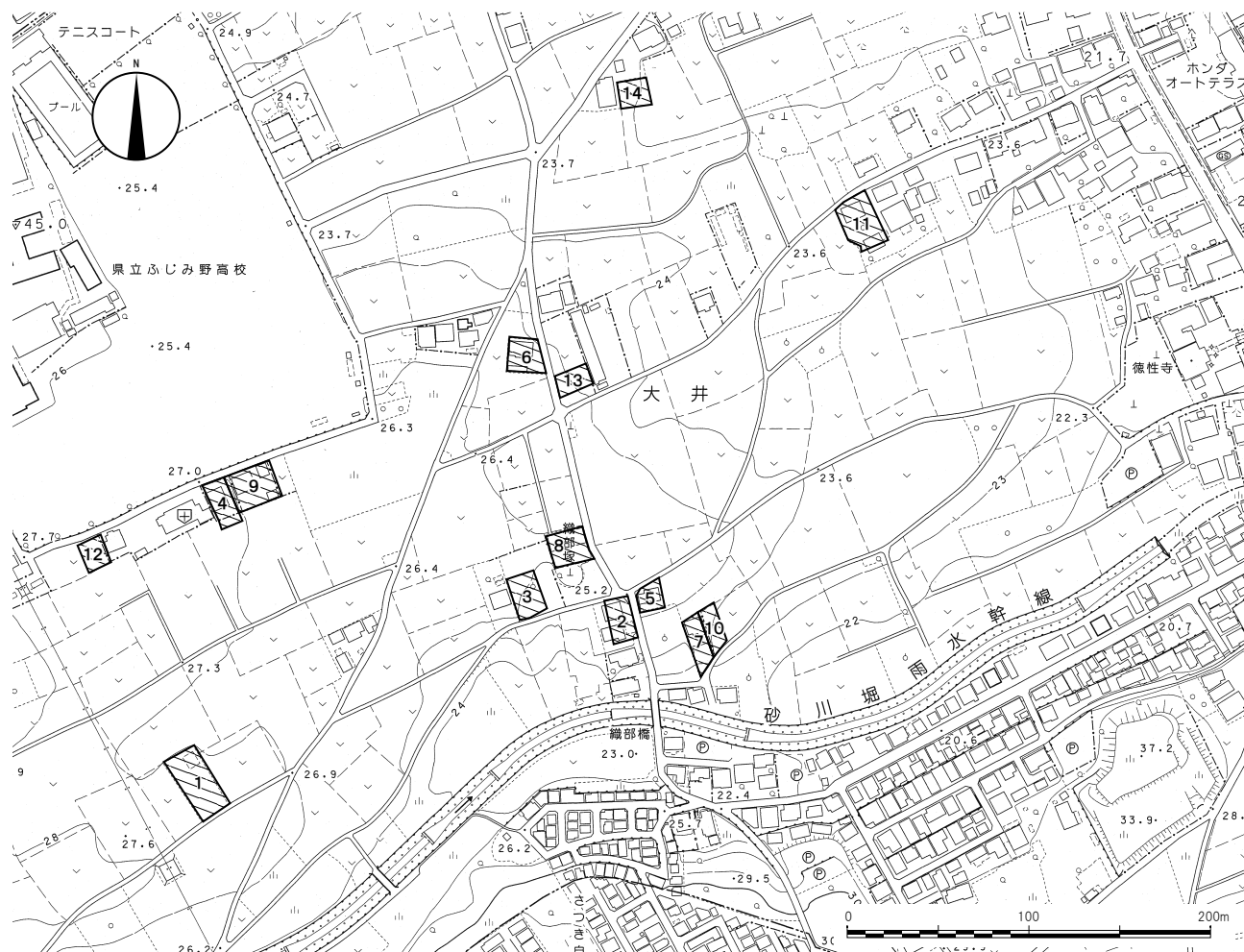
I 遺跡の立地と環境

小田久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約 1.3 km、砂川堀の左岸、標高 23 ～ 28m に位置する。本遺跡をのせる台地は緩やかな斜面を形成するが、対岸の南側台地は急傾斜をなす。

周辺の遺跡は、砂川堀を挟んだ南側台地上に旧石器時代の石器・礫群を検出した西台遺跡が、本遺跡の東側、微高地の突端には縄文時代前期住居を検出した大井氏館跡遺跡がある。

本遺跡は市街化調整区域のため比較的武蔵野の面影を残す農村地帯だが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の波が押し寄せつつある。

1990 年に最初の試掘調査が行われて以来、過去の調査では数点の縄文土器片を確認しているだけであったが、2003 年と 2004 年の調査において本遺跡では初の住居跡を検出したことにより、本遺跡が縄文時代中期の集落である事が明らかとなりつつある。今後は集落の分布や範囲の解明が待たれる。分布調査や発掘調査から遺跡の時期は旧石器時代、縄文時代早期から中期、中近世である。2020 年 4 月現在、14 ケ所で調査を行っている。



第 141 図 小田久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第69表 小田久保遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ()は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	大井 1223-3	(1990.10.12～18)	694		資材置場	遺構なし、縄文土器		東XI
2	大井 1249-1	(1993.9.21～10.1)	498		個人住宅	遺構なし、縄文土器等		町内III
3	大井 1214-3	(1994.6.7)	330		個人住宅	遺構なし、縄文土器等		町内IV
4	大井 1185-5	(1997.6.24～26)	271		個人住宅	土坑		町内VII
5	大井 1023	(2003.8.18・19) 2003.8.20～9.2	165		個人住宅	縄文時代住居跡1、ピット、溝、縄文土器等		町内XII
6	大井字小田久保 1207-15	(2004.10.26・27) 2004.10.28～11.13	306		個人住宅	縄文時代住居跡1、集石土坑、土坑、ピット、縄文土器等		町内XII
7	大井字西原 1023-9・8	(2008.5.19～21)	333	(108)	個人住宅	遺構遺物なし		市内6
8	大井字小田久保 1211-1	(2010.3.3～9)	421	(174.7)	個人住宅	土坑、ピット、溝、縄文土器等		市内8
9	大井字小田久保 1185-1	(2010.3.8)	536	(91.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内10
10	大井字西原 1023-3	(2014.10.7)	317	(94.4)	個人住宅	土坑、縄文土器		市内20
11	大井字西原 985-4	(2015.5.14)	330.16	(30)	個人住宅	遺構遺物なし		市内22
12	小田久保 1190-1・2・4、 1196-1・2	(2015.8.18)	279	(24)	個人住宅	遺構遺物なし		市内22
13	大井字西原 1032-27	(2018.10.9)	203.12	(49.2)	個人住宅	遺構遺物なし		市内25
14	大井字西原 1040-1	(2019.4.16)	321	(14.8)	個人住宅	遺構遺物なし		市内25

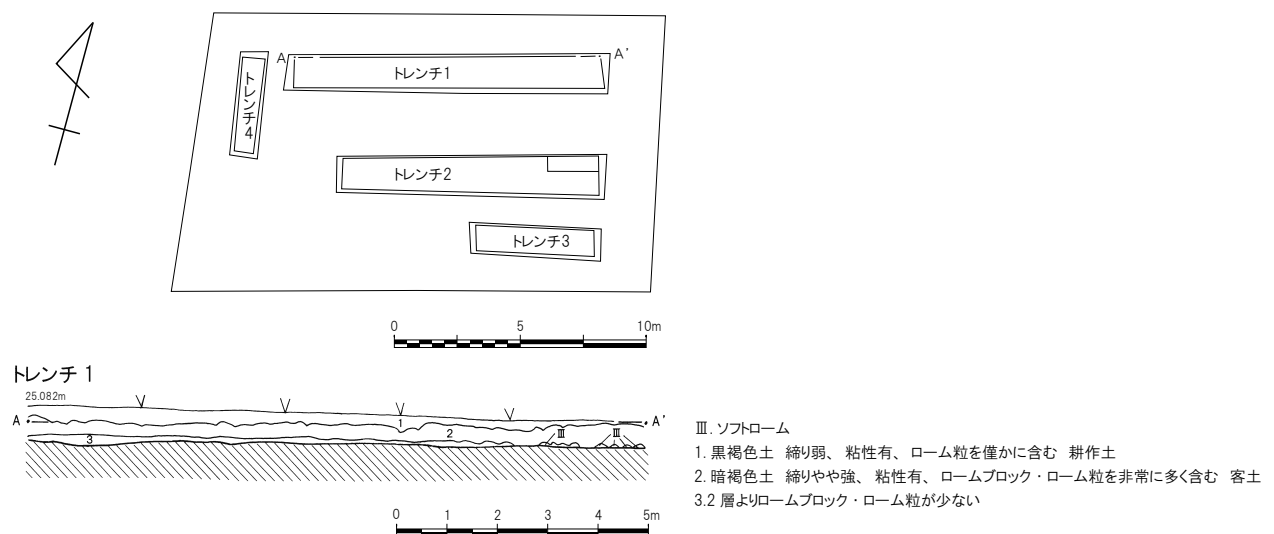
Ⅱ 小田久保遺跡第13地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2018年9月26日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため2018年10月9日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約1～1.5mのトレンチ4本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約70～80cmである。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



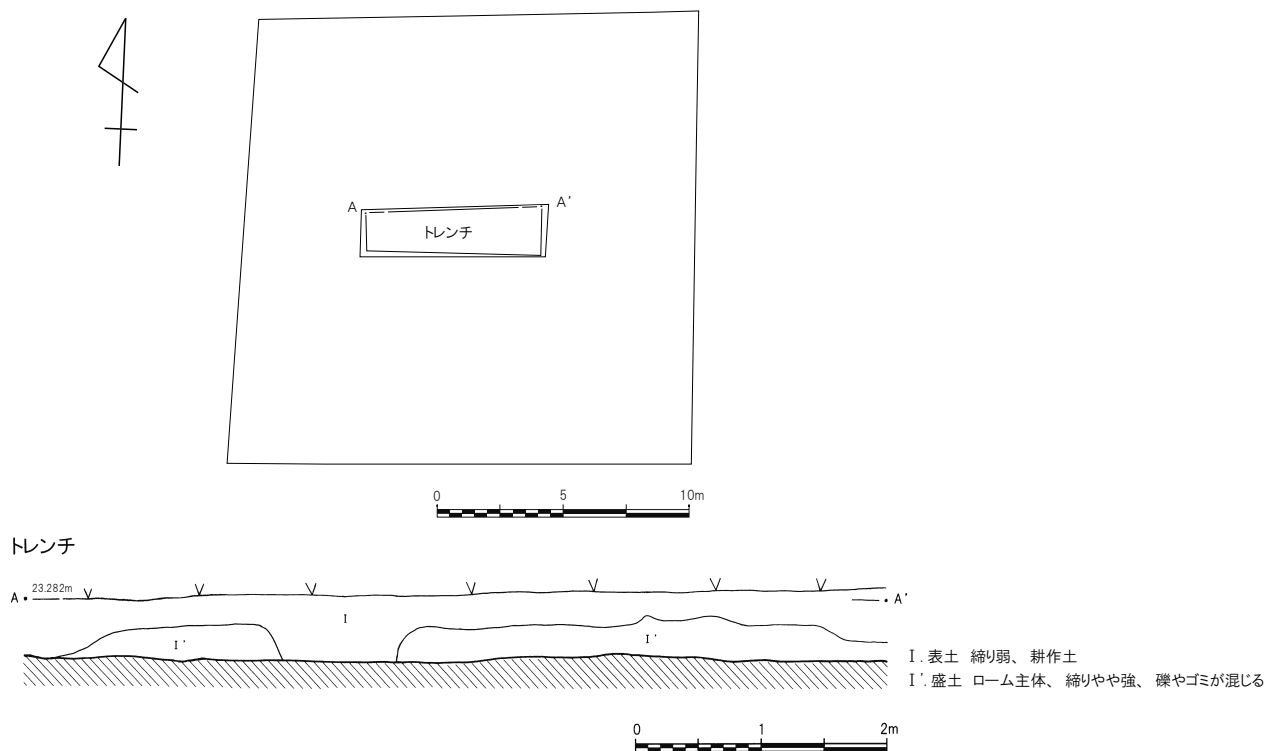
第142図 小田久保遺跡第13地点調査区域図(1/300)、土層(1/150)

Ⅲ 小田久保遺跡第 14 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 4 月 3 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 4 月 16 日に試掘調査を実施した。

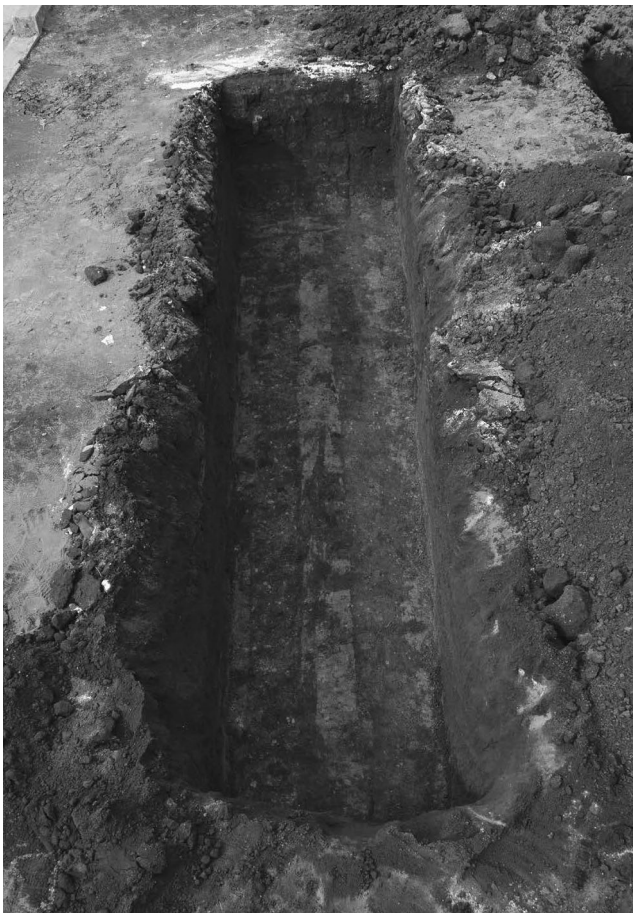
試掘調査は幅約 2m のトレンチ 1 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 ～ 60 cm である。調査の結果、現地表面より 60 ～ 80 cm 下でも地山ローム層は確認されなかったため、保護層の確保が可能であると判断した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 143 図 小田久保遺跡第 14 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)



小田久保遺跡第 13 地点トレンチ 1



小田久保遺跡第 13 地点トレンチ 4



小田久保遺跡第 13 地点トレンチ 2



小田久保遺跡第 14 地点トレンチ